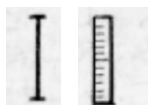


(4) 意味と音が結びついた漢字……形声文字

工から生まれた漢字

工 ニ 年 コウ ク



この字は、長さを計るものさしの目盛りを表した象形文字で、①「ものさし」が本義(もとの意味)です。しかし、②「ものさしを使

ってする仕事」、つまり「工作」の意味にも使われ、また、③「ものさしを使って仕事をする人」。つまり「大工」の意味にも使われました。ところが、④「仕事を努力してすること」、⑤仕事をうまくすること」、⑥「仕事をしあげること」の意味にも使われるようになりました。こうなると、②③はまだいいのですが、④⑤⑥となると、別に文字を作って、区別できるようにしたほうが、便利だと考えるようになり、④の意味には、

攻 コウ せめる

[父は167ページに説明しましたように、「督励する」「はげむ」意味を表す部品です。]という字を作りました。いまは、「攻撃」「攻める」というよう

に使いますが、「いっしょうけんめいがんばる」ことです。「専攻科目」という使い方がこれです。また、⑤の意味には、

巧 コウ たくみ

[巧は166ページの可の丁と同じで、「ものごとがうまくいく」ことを表しています。]という字を

功 五 年 コウ ク

[力を出した結果「成功」するので、力という字と組み合わせました。]という字は、⑥の意味のために作られた字です。

川の流れる音からできた「江」と「河」

さて、攻、巧、功は、すべて工がもとになってできた字ですから、みな「コウ」という発音をします、ところが、中国一の大川に、揚子江ようすこうという川があります。むかしは、揚子江とはいわずに、「工」と呼び、「江」と書いていました。それは、水の流れる音が、「コウコウ」と聞こえたからです。ですから、古くは「工」と書いたと思われませんが、水のしるしである「氵」と合わせて

江 コウ え

左のような字ができたわけです。

河 五 年 カ

という字があります。これは「カーカー」と流れる音からできた川の名です。有名な黄河こうがの事ですが、むかしはただ「可」とよび、「河」と書いたことは、江のばあいと同じです。いつも黄色くにごっているので、のちに

黄河と呼ばれるようになったものです。

この、江や河の「工」と「可」は、ただ発音を表すだけで、意味には何の関係ありません。「氵」が意味を表しているだけです。

このように、発音を表す部品と、意味を表す部品とでできている漢字を、「形声文字」といいます。「形」は象形文字、つまり、意味を表す部品をさし、「声」は発音をさしています。

漢字の大部分、はっきりいいますと、八割から九割近くまでが、この形声文字でできています。だから、漢字は表意文字ではありませんが、表音文字だともいえるのです。少なくとも英語程度、いや、それ以上に、発音をうまく表しています。


形声文字のいろいろ

紅 コウ ク くない べに コウ 工という色です。糸は、色を染めて使います。だから色の名には、よく糸を部品に使います。これは「くない」色です。あざやかな「あか」です。

紅白玉入れ。

紫 シ むらさき シ 此という色で、「むらさき」のことです。紫綬 しじゆ ほうしょう 褒章

緑 リョク ロク みどり ろくしやう 录という色で、「みどり」色のことです。緑青。ほかに、紺、緋などがあります。

肛 コウ 月は、肉をかんたんにした形で、の月と形は同じですが、意味がちがうので「肉月にくづき」といい、「きんにく筋肉」の意味に使います。肛は、工という名の筋肉です。

このように、攻、巧、江、紅、肛などの字は、すべて「工」という発音の字であることがわかるのです。


漢字の八、九割までが形声文字だとすると、漢字を見たら、すぐ、意味の部分と発音の部分とを見分けることがたいせつです。

部品によって、意味を表すものと、発音を表すものとは、おおよそ決まっていますので、それをおぼえるとたいへん便利です。たとえば、工は、ふつう、右がわにあって音だけを表しますが、左がわにあるときは、音と意味の両方を表しています。

左がわはへんといって意味を表す

漢字が左右に分けられるばあい、左の部分をへんといい、右の部分をつくりといいます。へんは意味を表すものが多く、そのばあい、つくりは音を表すのがふつうです。

つぎに、意味を表すへんをあげてみます。

禾 カ (のぎへん)  (禾)がへんになった形。いねが穂をたれた形。「いね」「穀物」の意味に使われます。

秋 一二年 シュウ あき
 ● にもの 火は煮物に使うので、「熟す」意味があります。
 「いねの熟すとき」が秋というわけ。音のシュウ

私 六年 シ わたくし
 シムが「わたくし」の意味。私は、「わたくしの禾」、
 つまり、「わたくしの分けまえ」ということで、「自

緑 六年 テイ
 ● 壬は **𠂔** で、役人が立っている形。皇は、「お
 上に申しあげる」「さしあげる」こと。程は、呈出

● いね そぜい する禾」、つまり租税のこと。これは、「きまり」に
 従って呈出するので、規程などと使う。

種 四年 シュ たね
 ● 重は **重** で、**亻** (ひと) が土の上に荷物を身に
 つけて立つ形。「おもい」こと。禾は、質の良い、

● いね 重いのを選んで、これを「たね」にする、シュは
 重のつまったもの。


積 四年 セキ つむ つもる
 ● セキ せきん 責(責任)として納める禾のこと。これは別に
 積んでおくので、いまは、「つむ」意味に使う。

且は物を積み重ねる意味の部品

租 ソ
 且は、「物を積み重ねた形」を表わしたもの。租
 は「積み重ねた禾」のことで。つまり、「税として
 納める禾」のことで。



組 一二年 ソ くみ
 ● 何本もの糸を組み合わせて編んだ「くみひも」
 のこと。いまは、糸に関係なく、「くみ」「くむ」と使
 う。

ネは神さまのしるし

祖 五年 ソ 
 ● なくなったおじいさん、ひいじいさんが神さ
 ま、それがその先、さらにその先と続くので、
 「祖」または「祖先」という。

社 三年 シヤ やしろ
 ● その土地の平和を祈って祭った、「土地の神さ
 ま」のこと。この社を中心にして、家がふえ、人々
 が集まり、会うようになるので、これを「社会」とい
 う。

甗は酒を入れる器

甗 フク
 ● 甗は  で、酒器の形を表わしたもの。こんなも
 ののある家()は、富裕な家にきまっているの

で、宀と畐で「とみ」を表わした。

福 フク
四年

「神様から与えられたとみ」、それは、目に見えるものではなく、心で感ずることのできる富である。

副 フク
五年

「副(りつとう)は刀の意味。富を二つに切り分けることで、もとは福。財産を二つに分けるわけは、片方を使って、もう一つは、万一のための「ひかえ」にするためである。副会長。

よく、福と副とをとりちがえる人があります。それは、ネやリの意味を知らず、福と副とのほんとうの意味を知らないからです。部品をしっかり覚えておいてください。

申はかみなりさま

雷 ライ
かみなり

むかしの人は、神さまが鬼を使って、雲の上から水をまいている、と考えていました。夕立雨のときは、水を積んだ車を忙しく走らせるので、ゴロ

ゴロ、音がするのだと思っていたのです。これを、神鳴りといって、「雨」と「田(⊕は車の輪の形)」で、表わしました。

電 デン
三年

雷からぴかぴかと出た光が、**レ**で、電は、「いなびかり」のこと、この正体を、いまでは、電気と

いうわけです。

震 シン
ふるう

雷が激しく鳴ると、大地までピリピリと「ふるえる」。これがほんとうの震で、いまでは、地震の震に使います。